

2019 年度(令和元年)

# 名勝 小金井桜の会

## 総会議案書

名勝小金井桜を次代に適切に継承するために



熟したサクランボ



6月のサクランボ拾い



翌年にサクランボの植付け



台木に古木の芽接ぎ作業



芽接ぎ苗を1年の育成管理



芽接ぎ成功!(成功率30%)



台木の芯を切断



小長久保ファームに移植



3年間の育成管理が始まる



雑草の草刈りが一大作業



ファームで大事に育成管理会議



発芽ら6年かかりやっと植樹へ



植樹された小金井桜後継樹

2019 年(令和元年)6月15日





## 目 次

巻頭言 名勝小金井桜を次代に適切に継承するために -----	1
議案 1 平成 30(2018)年度活動報告 -----	2
議案 2-1 平成 30 年度収支報告書 -----	4
議案 2-2 平成 30 年度さくら基金収支報告書 -----	6
議案 3 2019 年度活動計画 -----	7
議案 4-1 2019 年度収支予算 -----	11
議案 4-2 2019 年度さくら基金支出予定 -----	12
議案 5 2019 年度役員を選任 -----	13
参考 1 会員数の平成 30 年度における増減等 -----	14
参考 2 玉川上水・小金井桜整備活用計画に基づく整備区間 -----	15
参考 3 小金井市域における小金井(サクラ)の生育状態等 -----	16
参考 4 クビアカツヤカミキリの防除対策 -----	17
参考 5 名勝小金井桜の会 会則 -----	19



# 名勝小金井桜を次代に適切に継承するために

名勝 小金井桜の会 会長 小沼 廣和

## ○ 小金井桜の歴史

玉川上水堤のヤマザクラ並木は、1737年(元文2年)八代将軍吉宗の命により、川崎平右衛門が新田開発・寒村の賑わいづくりの一環として奈良県吉野山・茨城県桜川などからヤマザクラの名品を取り寄せ両岸約6kmに約1200本を地元農民の協力を得て植えられたものです。

江戸後期には多くの文人墨客が観桜に訪れ、紀行文や錦絵等で紹介されると上野山・飛鳥山と匹敵する江戸近郊の桜の名所として多くの花見客が訪れました。

1889年(明治22年)に甲武鉄道(現JR中央線)が開業され、1924年(大正13年)のお花見時期には武蔵小金井駅臨時乗降場が設置され、お花見の名所として益々多くの観桜客を集め、地元の農家が出店する露店の売り上げは貴重な現金収入として生活を潤したといわれています。

## ○ お花見の為に開設された駅

1924年(大正13年)12月9日「史跡名勝天然記念物保存法」に基づき、奈良吉野山桜・京都御室桜・茨城桜川桜と一緒に国の名勝に指定されました。

翌年1月15日武蔵小金井駅は正式に開設され、さらに花見客を増やしました。また、イギリスに日本の桜を広めた園芸家チェリー・イングラム(本名:コリングウッド・イングラム)は4月21日に小金井桜を観桜し、その素晴らしさを手記に報告しています。([知らざる英国人桜守、チェリー・イングラムを追う]阿部菜穂子著)

1926年には東村山鉄道(現西武鉄道)に花小金井駅が開設されました。両駅とも小金井桜のお花見のために開業された駅と云えます。

## ○ 先人たちにより受け継がれてきた小金井桜

1851年(寛永4年)の補植の際に田無村下田半兵衛により設置された関野橋袂の【さくら折るべからず】の「桜樹接種碑」には『百年余がたち老木化が進んだので…村々で桜の苗木を持ち寄り、それぞれの持ち場に数百本を植えました。…桜樹が永久に植え継がれ、保護されることを願って建てたものです』と刻まれています。

280年余の歴史を誇る「名勝小金井桜」であるヤマザクラの寿命は人間と同じぐらいと云われ、代々先人たちにより植え継がれて、今、私たちにお花見を楽しませてくれています。

東京都並びに小金井市が策定した「玉川上水整備活用計画」に基づき2011年度から始まった小金井桜復活プロジェクト事業は、川崎平右衛門が桜を植えてからおそらく4回目の植替えであろうと推測されます。

小金井市・小平市・西東京市・武蔵野市に所在する「名勝小金井桜」は、国の文化財として文化庁が所管し、東京都教育庁が管理者となっています。私たちは郷土の大事な歴史的文化遺産を『国・東京都・地元自治体・市民』との一大コラボレーション事業として次代に適切に継承しなければならないと思います。

## ○ 系譜の正しい小金井桜を次代へ

現在私たちは、ヤマザクラ並木である名勝小金井桜の育成を【サクラノボの採取・台木づくり・多種多様なヤマザクラの穂木の採取・「芽接ぎ、枝接ぎ」による苗木育成・3年間の育成管理】により苗木を育成し、地元自治体を通して東京都に提供する役割を担い、名勝としての適切な後継樹を玉川上水堤に植栽しています。

最後に、「チェリー・イングラム…日本の桜を救ったイギリス人」…阿部菜穂子著の一文(58ページから抜粋)を掲載し、小金井桜のすばらしさをご紹介します。イングラムは林愛作とともに、当時の東京のもう一つの桜の名所、小金井堤に行った。(中略)この桜は今まで見た中でいちばん質が良い。ほとんどの樹の葉は茶色だが緑がかかった葉の物も何本かある。それらは花が大きく、開花時期も遅い。茶色の葉の桜も、よく見ると葉は赤身がかかっていたり、鈍い銅色だったり変化がある。また花の形や大きさも少しずつちがう(中略)この桜はすべてヤマザクラだ。



1926年当時の玉川上水堤  
(イングラム家提供)



〔議案 1〕

平成30(2018)年度 活動報告

- 4月 小金井桜開花調査(3月中旬～4月中旬)  
小長久保ファームでのフィールドワーク(ハウスから移植した苗木に支柱添え)  
観桜会(親子スタンプラリー&小金井桜花見の宴)  
玉川上水小金井桜保全に関する都教育庁・水道局・小金井市の現地確認に同行  
4月例会(第135回)  
会報ヤマザクラ第14号発行
- 5月 小長久保ファームでのフィールドワーク  
総会  
「名勝小金井(サクラ)の整備に関する要望書」を都・小金井市に提出
- 6月 みどりセンターまつりにて小金井桜写真展(1日～3日)  
小長久保ファームでのフィールドワーク(除草)  
6月例会(第136回)&学習会「小金井桜復活に向けての行政機関との連携について」(椎名豊勝先生)
- 7月 小長久保ファームでのフィールドワーク(除草)  
桜の接木技能講習会  
会報ヤマザクラ第15号発行  
カブト虫相撲大会&流しそうめんの会  
7月例会(第137回)&学習会「名勝小金井桜継承のための市民活動の歩み」(石田氏・小沼氏)
- 8月 小金井桜復活に向けて会員でもある市議会議員との意見交換会  
小長久保ファームでのフィールドワーク(除草、水遣り)  
玉川上水小金井桜の樹勢調査  
小金井桜復活に向けての小金井市選出都議会議員との意見交換会
- 9月 小長久保ファームでのフィールドワーク(除草・場内清掃等)  
学習会「再生請負人和田博幸樹木医語る」(和田博幸先生)
- 10月 小長久保ファームでのフィールドワーク  
玉川上水・小金井桜整備活用推進委員会を傍聴  
小金井桜の保全についての市生涯学習課との意見交換会  
なかよし市民まつりに出展(20日～21日)  
北上市・桜川市・小金井市の交流懇親会を開催  
小金井(サクラ)の整備に関する要望」に対する都(教育庁)・市からの回答の説明  
玉川上水落葉回収大作戦第1回実行委員会  
玉川上水整備(雑木整理等)事業説明会に出席

- 11月 小長久保ファームでのフィールドワーク（清掃、倉庫の整理）  
11月例会（第138回）  
「名勝小金井(サクラ)の整備に関わる回答に対する再考について」の要望書を市・都に提出し、意見交換  
玉川上水落葉回収大作戦を実施（参加者：339人、回収量：約16,000㍑）
- 12月 小長久保ファームでのフィールドワーク  
12月例会（第139回）  
玉川上水緑保全事業都・区市連絡協議会に出席

### 平成31年

- 1月 銘酒小金井桜蔵元(豊島屋酒造)見学会&新年懇親会
- 2月 「名勝小金井(サクラ)の整備に関わる回答に対する再考について」の要望書に対する都・市の見解の説明を聞き、意見交換  
小長久保ファームでのフィールドワーク（玉川上水に移植する苗木の選定）  
小金井市制60周年・三宅島との姉妹都市提携40周年記念植樹式で植樹する小金井桜を寄贈し式典に参列  
玉川上水・小金井桜整備活用推進委員会を傍聴  
2月例会（第140回）  
小長久保ファームで育生した苗木の玉川上水への移植に立合い
- 3月 小長久保ファームでのフィールドワーク（ハウスから移植した苗木の記録等）  
桜の接木技能講習会  
3月例会（第141回）  
法政大学佐野教授から「DNAによる山桜の分類に関する研究」30年度研究結果の説明を受ける

平成30年度収支報告書

30.4.1~31.3.31

	科 目	予 算	決 算	対 予 算	備 考
収入の部	前期繰越	145,791	145,791	0	
	会 費	110,000	106,000	△ 4,000	2,000×52 + 1,000×2 + 未納7,000
	苗木出荷代	120,000	120,000	0	29年度8,000×15
	事業収入	60,000	106,900	46,900	市民まつり 91,900 学習会会費 15,000
	雑収入	0	516,000	516,000	寄付金500,000+10,000+6,000
	預金利息	0	1	1	
	計	435,791	994,692	558,901	
支出の部	事業費				
	写真展費用	13,000	14,330	1,330	記念品4,410・切手他5,422・印刷代1,868 事務用品2,630
	植樹調査費	0	0	0	さくら基金より (10,000-9,500)
	落葉回収大作戦	35,000	51,617	16,617	箱手-箱手-ゴミ袋25,725 保険6,650・ 通信費16,002 印刷3,240
	市民まつり支出	70,000	101,999	31,999	酒74,423・出張費25,200 + ラミネート 2,376
	観 覧 会	30,000	3,280	△ 26,720	案内状切手 82×40
	育苗ファーム活動費	40,000	25,237	△ 14,763	記念品20,000+通信費5,037+収入印紙200
	学習会等講師謝礼	50,000	29,588	△ 20,412	講師謝20,000+会費費1,050 +案内状8,538
	ホームページ運営費	80,000	77,928	△ 2,072	更新料60,000 サーバー17,928
	会報発行費	52,000	28,259	△ 23,741	送料19,526 用紙・封筒他8,733
	通 信 費	15,000	14,599	△ 401	切手+はがき7,466 送料7,133
	事 務 費	20,000	38,484	18,484	コピー1,530+インク30107+用紙・封筒他6,847
	保 険 料	10,000	6,300	△ 3,700	300×21
	予 備 費	20,791	8,242	△ 12,549	連絡会費1,632-総務費1,820-賛助交歓会 3,000-電池1,590 収入印紙200
次期繰越		594,829	594,829		
	計	435,791	994,692	558,901	

以上の通り報告します

平成31年 4 月 10 日

名 務 小 金 井 桜 の 会

会 長 小 沼 廣 和

財 務 田 嶋 清 二



平成30年度決算報告を監査したところ適正に処理されていることを確認しました

平成31年 4 月 19 日

監 事 北 村 佳 代 子

監 事 竹 前 直 子





平成30年度さくら基金収支報告書

30.4.1~31.3.31

	科 目	口 数	金 額	摘 要
収入の部	前期繰越	302	487,683	9口
	基金	9	74,498	
	預金利息		3	
	計	311	562,184	
支出の部	DNA解析費用		27,086	桜川訪問6名交通費22,370 飲食代補助4,716 樹木医師礼 10,000 調査員報酬 19名 9,500
	樹勢調査		19,500	
	次期繰越		515,598	
	計		562,184	

以上の通り報告します

平成31年 4 月 10 日

名勝 小金井桜の会

会長 小沼廣和



財務 田嶋清二



平成30年度決算報告を監査したところ適正に処理されていることを確認しました

平成31年 4 月 19 日

監事 北村佳代子



監事 竹前直子





## 2019年度活動計画

### I 名勝小金井桜復活のための苗木の育生と日常管理等

#### 1 名勝小金井桜復活の植樹に必要な苗木の育生 (重点事業)

- ・ 玉川上水堤に名勝小金井桜後継樹を植樹するため、系譜の正しい「後継樹母樹リスト」の小金井ヤマザクラの古木から穂木を採取し、杉山技術顧問の指導のもと接ぎ木をして主にハウスで2年程栽培した後、小長久保育苗ファームに植替え、6年後に後継樹として移植できるよう計画的に育生する。
- ・ 生育環境がより整った育苗ファームの適地が見つければ、新たなファームへ円滑な移転ができるよう努める。
- ・ 2019年度の移植予定数である26本の若木を提供できるようにする。

#### 2 移植した桜の日常管理事業等

- ・ 名勝小金井桜後継樹として移植した若木への水やり・施肥・剪定等の適正な育生管理を行うと共に下草等の植生変化のモニタリング調査を行えるようにするため、東京都水道局・教育庁からフェンス内への立ち入り許可の取得に努める。
- ・ 玉川上水の雑木伐採後の萌芽更新等についての剪定・伐採や下草刈りなどの植生管理が、東京都及び小金井市の作成した玉川上水小金井桜整備活用計画の「実施計画」に明記されている役割分担に基づき適切に履行されるよう、関係機関に強く働きかける。
- ・ 過去に植栽された小金井桜後継樹の内、ヤマザクラ以外の植栽樹及び成長不良な植栽桜等の植替えがなされるよう、関係機関に強く働きかける。

#### 3 名勝小金井桜の定期パトロール

- ・ 衰退が著しい既存の小金井桜及び補植した桜の若木の現状について、定期パトロールによりチェックしレポートにまとめ、管理者である都教育庁並びに小金井市をはじめとする地元自治体に報告すると共に、適正な生育管理が行われるよう要請する。

#### 4 クビアカツヤカミキリの防除対策 (重点事業)

- ・ 東南アジア地域から侵入してきたクビアカツヤカミキリ虫は、サクラ等の樹木に産卵し、孵化した幼虫は木の内部に侵入し、2～3年かけて樹木を食い荒らし枯死させてしまうため、環境庁は昨年これを「特定外来生物」に指定し、その早期発見・駆除を呼びかけている。
- ・ 現在までのところ名勝小金井桜への侵入・被害発生の報告はないが、東京・埼玉のいくつかの市・町における発見情報もある。
- ・ 当会としても、「樹勢調査」や「定期パトロール」の際十分注意して防除に努める。また、すべての会員、関係団体や近隣にお住いの方々、玉川上水・小金井公園を訪れるの方々にも早期発見・早期駆除に協力してもらえるように、樹木医に講師をお願いしてクビアカツヤカミキリ虫の生態等についての学習会を実施する。

## II 小金井桜に関する調査研究

### 1 第18次小金井桜の樹勢調査の実施（7月から8月）

- ・ 名勝指定区間の小金井市域区の小金井桜について樹勢調査を夏の時期に実施しデータ化して、小金井桜の現在おかれている実態や近年の衰退状況の推移等を内外に発信する。

### 2 DNA解析による桜の樹種分類に関する研究への協力

- ・ 現存する山桜の系譜をDNA解析により樹種の分類を試みようと取り組んでいる法政大学生命科学部・植物医科学センターの佐野教授及び大学院生の方々の研究に対し、資料や資金の提供等の支援を行う。

### 3 玉川上水の桜の開花状況調査（3月から4月）

- ・ 玉川上水の各桜についてその開花時期、花の色や形状、葉の状況等を観察・記録し、蓄積されたデータからその桜樹の特性等を把握できるよう、開花状況調査を継続して行う。

## III 小金井桜への理解を深め、多くの人も関心を寄せられるようにする取組み

### 1 学習会・意見交換会等の開催（適宜）

- ・ 小金井桜の復活に向けて、桜に造詣の深い有識者や長年桜の育生・管理に携わってこられた方を講師に迎え、会員以外の方々も参加できる学習会・講演会を開催し、小金井桜の歴史と再生に向けた課題等を学ぶと共に、新会員の加入促進を図る。
- ・ 都・市の関係部署の職員、市議会議員、市内の各種団体役員等との意見交換会等を開催し、小金井桜復活へ向けての相互の理解と協力を図る。

### 2 小金井桜観桜会の開催（4月）

- ・ 玉川上水の桜の花が見頃となった頃の日曜日に、会員のほか行政関係者や一般市民にも呼び掛けて、都や市が玉川上水整備の実施計画に基づいて整備した区間又はこれから整備しようとする区間を一緒に歩いた後、小金井桜を愛でながら懇談する「観桜会」を開催し、相互の協力・連携関係の維持向上を図る。

### 3 名勝小金井桜写真展の開催（6月）

- ・ その年玉川上水で撮った小金井桜の写真を市民から募り、優れた作品20点ほどを6月初めの「みどりセンターまつり」で「小金井桜写真展」を開催する。
- ・ 応募写真の中から優秀作品・人気の高かった作品を表彰して小金井桜の素晴らしさを内外にアピールする。

### 4 「なかよし市民まつり」への参加（10月）

- ・ 10月に小金井公園で開催される「なかよし市民まつり」に出店し、会の活動をPRするとともに小金井桜にゆかりの物品を販売して活動費の一助とする。
- ・ 本会与協力関係にある「北上さくらの会」「桜川サクラサクプロジェクト」に市民まつりへの参加を呼びかけ、桜を通じての交流をアピールする。



## 5 玉川上水落葉回収作戦の実施（11月）

- ・ 玉川上水の小金井桜が江戸時代から地元住民によって守り育てられてきた文化財であることから、近隣町会・自治会や市内の各種団体と協力して「落葉回収作戦」を実施することにより、環境美化とともに、名勝小金井桜の復活に向けてのネットワークづくりの一助とする。

## 6 ホームページの充実

- ・ 当会の小金井桜の歴史と復活に向けた活動をアピールするとともに、長年の観察・調査記録等を関係団体や関心を持つ方々にも分かりやすく提供できるよう、ホームページの内容充実を図る。

## 7 さくら基金の募集

- ・ 多くの方々から「名勝小金井桜の復活」事業への協力・協賛を得るため、イベントや学習会等を開催する際「さくら基金」を積極的にPRし、募金活動を行う。

# IV 運営体制の充実

## 1 定例会・役員会・フィールドワーク（毎月）

### 定例会

毎月第3土曜日の午前10時から文化財センターで開催し、活動状況についての報告・意見交換をして情報共有を図ると共に、今後の課題等を協議する。

### 役員会

定例会に先立っての議題等の打合せ、イベント実施の準備状況の確認、市や都とへの要請や協議を行うに当たっての打合せ等のため、適宜開催する。

### フィールドワーク

毎月第1土曜日の午前10時から「小長久保育苗ファーム」において杉山技術顧問の指導のもと、苗木育生のためのフィールドワークを行う。

## 2 会報の定期発行

- ・ 会の活動状況や課題について会員及びさくら基金協力者と情報共有を図るため、会報の定期発行（季刊を目標）及び内容充実に努める。

## 3 新会員の加入促進（重点事業）

- ・ 当会の前身「名勝小金井桜に親しむ会」の発足から23年に亘る努力の積み上げにより、市や都との協力・信頼関係もすっかりしてきたが、その一方で最近では会員の高齢化・活動参加者の固定化傾向が顕著化してきている。苗木の育生や小金井桜の観察・記録等の業務を維持していくためにも、新会員の獲得は焦眉の課題となっている。
- ・ 山桜の魅力や会の活動を積極的にPRするとともに、桜に関する学習会や育苗作業体験・接木技能講習会などを開催して、新会員の獲得に努める。

#### 4 NPO 法人環境再生機構（小金井桜を復活する会）との連携・協力

- ・ 当会は現在は法人格の無い任意団体であり、自治体等との契約締結はできないため、復活する会と密接な連携・協力関係を結び、育苗用地の借受けや育生した若木の納入契約事務等は復活する会が、苗木の育生業務等は桜の会がと役割分担して活動してきたところである。
- ・ 復活する会はこれまでミズを使って生ごみをコンポスト化する環境循環システムの事業化に取り組んできたが、「本格事業化の目途が立ち今後はこれに力を傾注していきたいので、名勝小金井桜の整備・保全については桜の会が主体的に取り組むようにしてほしい」との意向が示された。
- ・ このため、当会が取り組んできた小金井桜の苗木育生や調査・研究等の活動を今後も継続的・安定的に行っていくよう体制整備に努めることとし、復活する会とは新たな連携・協力関係づくりを図っていく。

#### 5 主体的で継続性・安定性のある活動ができる組織体制の検討・整備（重点事業）

- ・ 当会の組織体制等を整備するため、現在行っている事業を点検して区分けをする。
  - (1) 当会の設立目的に深く関わる事業として執行体制を整備してでも取り組むべき事業（基幹事業）
  - (2) 負担と効果がバランスする範囲で取り組むべき事業（付随事業）
- ・ 基幹事業については、それを継続的・効果的に行えるような事業内容の組立てと、それを安定的に執行するための組織等の整備を検討する。
- ・ 付随事業については、上記により整備された組織体制において対応可能な範囲内で実施できるよう事業の整理や再構築を行う。
- ・ これらの検討を行うため、役員会メンバーを中心に「(仮称)事業・組織検討委員会」を設け、検討の節目で定例会の場で検討状況を報告し意見交換する。
- ・ 法人化の問題についても、この委員会の中でメリット・デメリット、解決すべき課題などを整理し、その当否及び方策等の検討結果を報告する。



[ 議案 4-1 ]

2019年度収支予算

[ 収 入 ]

( 単位：円 )

大科目	中科目	予算額	(前年度決算額)	摘 要
前年度からの繰越金		594,829	145,791	
11	会 費	111,000	106,000	
	111 正会員	108,000	104,000	@2000×54名
	112 賛助会員	3,000	2,000	@1000×3名
	113 団体会員	0	0	
12	寄 付	3,000	516,000	
13	事業収入	301,000	226,900	
	131 桜苗木納品代金	176,000	120,000	@8000×22本(2018年度納品分)
	132 学習会参加費	10,000	15,000	@500×20名
	133 市民まつり売上金	90,000	91,900	
	134 観桜会参加費	25,000		@1000×25名
	135 その他の事業収入			
14	雑収入	1	1	
	141 預金利息	1	1	
年度内収入(見込)額		415,001	848,901	
合 計		1,089,830	994,692	

[ 支 出 ]

( 単位：円 )

大科目	中科目	予算額	(前年度決算額)	摘 要
21	事業費	437,000	312,038	
	211 桜苗木育生経費費	40,000	5,037	消耗品費、再生管理費
	212 学習会経費	50,000	29,588	講師謝礼、会場費、資料等印刷費
	213 市民まつり経費	110,000	101,999	出店料、販売品仕入代
	214 観桜会経費	30,000	3,280	会場設営費、飲物・食物購入費
	215 定期ハローロール経費	15,000	—	消耗品費、報告書作成費
	216 落葉回収大作戦経費	35,000	51,617	資料作成費、消耗品費、保険料
	217 小金井桜写真展経費	25,000	14,330	写真額装費、審査員交通費
	218 ホームページ運営経費	80,000	77,928	更新手数料、サーバー維持費
	219 会報発行経費	52,000	28,259	(4回発行)印刷費、郵送費
22	管理費	95,000	87,825	
	221 会 議 経 費	10,000	1,632	会議資料作成費、意見交換会等会場費
	222 渉 外 経 費	15,000	24,820	他団体主催行事参加費等
	223 事務・管理用品経費	40,000	40,074	コピー用紙・インク・封筒購入費
	224 通 信 経 費	20,000	14,599	切手・はがき代、ユーバック代
	225 保 険 料	7,000	6,300	落葉回収作戦以外のボランティア保険
	226 雑 支 出	3,000	400	振込手数料、その他の雑支出
計		532,000	399,863	
予 備 費 (次期繰越)		557,830	594,829	
合 計		1,089,830	994,692	

\* 次の事業に係る費用は、さくら基金支出予定に標記

- 1 樹勢調査
- 2 桜に関する調査研究
- 3 桜の害虫等の防除対策
- 4 桜を通じた他自治体等との交流

[ 議案 4 - 2 ]

2019 年度 さくら 基金 支出 予定

( 単位 : 円 )

科 目	予 算 額	(前年度決算額)	摘 要
1 樹 勢 調 査	30,000	19,500	
樹 勢 調 査	30,000	19,500	樹木医謝礼、弁当代
2 桜に関する調査研究	30,000		
DNA解析調査	30,000		試料提供等支援経費
3 害虫等防除対策	50,000		
クビアカツヤカミキリ対策	50,000		講師謝礼、マニュアル作成費
4 桜を通じた交流事業	100,000	27,086	
他自治体との交流	100,000	27,086	北上市・桜川市訪問 交通費・交流会参加費
小 計	210,000	46,586	
次年度繰越額		515,598	

\* さくら基金からは次の事業に係る費用を支出する

- 1 小金井桜の樹勢調査
- 2 桜に関する調査研究
- 3 桜の害虫等の防除対策
- 4 桜を通じた他自治体等との交流



## 2019年度役員を選任

### 役員構成新旧対照表

#### 2018年度役員

#### 役職

#### 2019年度役員

2018年4月1日～2019年3月31日

2019年4月1日～2020年3月31日

石田 精一  
 小沼 廣和  
 杉山 利男  
 日並 洋一  
 植竹 隆夫  
 鏑山 英次  
 岩間 博昭  
 本橋 一夫  
 宮川 和幸  
 田嶋 清二  
 ー  
 小迫 悦子  
 杉本 和子  
  
 北村 佳代子  
 竹前 直子  
 杉山 利男  
 石田 精一

名誉会長  
 会長  
 副会長  
 副会長  
 副会長  
 副会長  
 事務局長  
 事務局  
 事務局  
 財務  
 財務  
 総務  
 広報(ホームページ)  
 広報(会報)  
 監事  
 監事  
 技術顧問  
 技術顧問

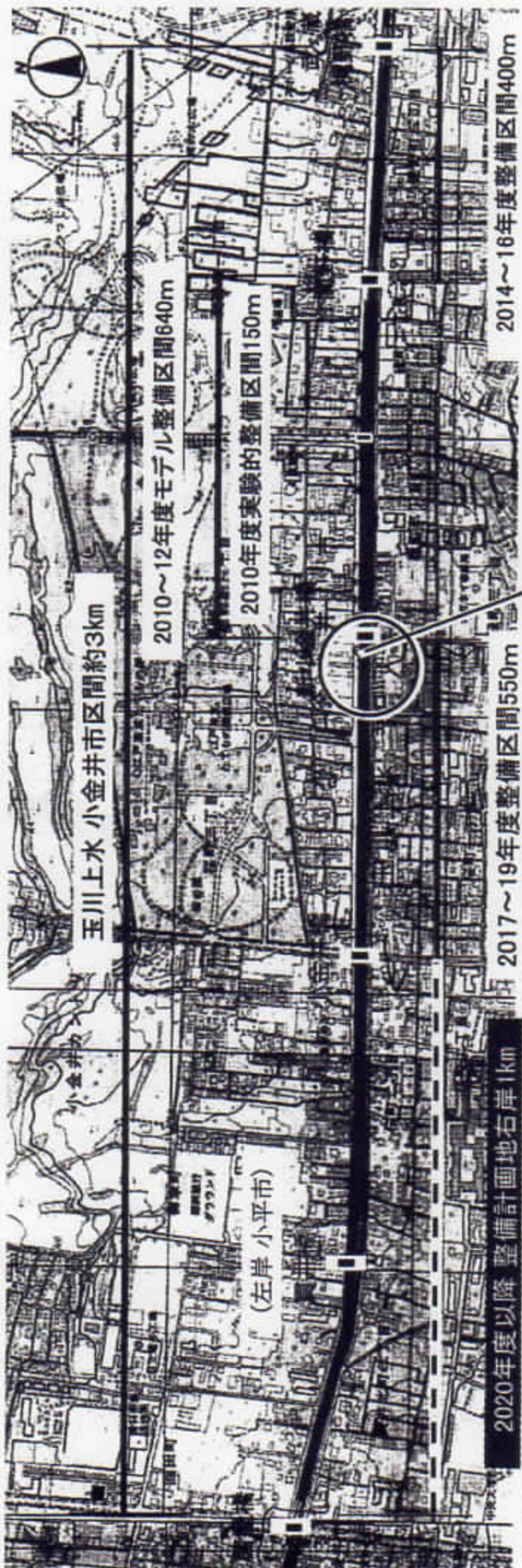
石田 精一  
 小沼 廣和  
 杉山 利男  
 日並 洋一  
 植竹 隆夫  
 ー  
 小沼 廣和  
 本橋 一夫  
 岩間 博昭  
 田嶋 清二  
  
 杉本 和子  
  
 北村 佳代子  
 三宅 章  
 杉山 利男  
 石田 精一

.....

亀山 章 (公財 日本自然保護協会理事長) 顧問  
 大石 学 (東京学芸大副学長) 顧問  
 浅田 信行 (公財 日本さくらの会事務局長) 顧問  
 和田 博幸 (公財 日本花の会主幹研究員) 顧問

.....

亀山 章  
 大石 学  
 浅田 信行  
 和田 博幸



小金井市玉川上水・  
小金井桜整備活用  
推進委員会 での  
配布資料より引用



## 小金井市域(西屋橋から梶野橋・境陸橋間)における名勝小金井(サクラ)生育状態等の樹木台帳

2019年3月小金井市調査

### 1. 樹木台帳整備の目的

2009年8月(平成21年)東京都水道局策定の『史跡玉川上水整備活用計画』及び2010年3月(平成22年)小金井市策定の『玉川上水・小金井桜整備活用計画』に掲げる基本方針に基づき、名勝小金井(サクラ)並木の整備活用事業(該当市:小金井市、小平市、武蔵野市、西東京市)の先駆けとなる小金井市として、維持管理上の基礎的な資料を整備することを目的とする。

小金井市域の既存の名勝小金井(サクラ)及び新たに補植したヤマザクラの生育状況を記録した樹木台帳を作成する。この台帳を基礎資料として、今後継続的なモニタリングの実施が可能となり、名勝小金井(サクラ)の生育環境を良好に維持管理するための基盤を整備するものである。

### 2. 調査対象の名勝小金井(サクラ)

1993年(平成5年)に名勝小金井(サクラ)の管理者である東京都教員委員会が実施した「名勝小金井(サクラ)現況調査」に基づく名勝小金井(サクラ)と2011年2月(平成22年度)以降に新たに補植したヤマザクラについて、2019年3月現在の全サクラを調査対象とした。その間の変動は下記のとおりである。

- 小金井市域/調査対象総数・734本 枯死・伐採本数・144本 現存本数・590本(内新たに補植した本数・192本(内枯死:7本)・南側:84本(内枯死:2本)・北側:108本(内枯死:5本))
- 武蔵野市域/調査対象総数・21本 枯死・伐採本数・2本 現存本数・19本(内新たに補植した本数・8本)

### 3. 代表的な古木No.119の接ぎ木の母樹全容(小平市地域:喜平橋から小桜橋間に所在)

No.119	ヤマザクラ又はワスレヤマザクラ	早咲き	茶芽葉	樹高:12.5m/ 幹回り:270.0m
				
2010年3月30日撮影				

[参考 1-1]

名勝小金井桜の会 会員数の平成30年度における増減

	正 会 員	賛 助 会 員	合 計
平成30年度当初数	54	3	57
年度内の入会者数	8	0	8
年度内の退会者数	2	0	2
2019年度当初数	60	3	63

[参考 1-2]

名勝小金井桜の会 会員の住所地別構成 (2019年4月1日現在)

小金井市		都内他市		都内23区		他縣市町村	
東町	3	武蔵野市	2	品川区	1	茨城県土浦市	1
梶野町	3	西東京市	2	練馬区	3		
関野町	3	小平市	3	足立区	1		
緑町	6	国立市	1				
中町	2						
前原町	8						
本町	6						
桜町	6						
貫井北町	5						
貫井南町	7						
計	49	計	8	計	5	計	1



2018年1月15日より規制が開始されています

## クビアカツヤカミキリは、外来生物法に基づく 特定外来生物に指定されました。

- 特定外来生物は、飼養(飼育)・保管、輸入、販売、譲り渡し、野外へ放つことが禁止されています。
- 外来生物法に違反すると、個人の場合は最大で300万円の罰金もしくは3年間の懲役、法人の場合は最大で1億円の罰金が科されます。

### 成虫の特徴

全体的に光沢のある黒色で、胸部(クビの部分)が赤い



**体長**  
2.5~4cm  
(触角は含まず)

原産地は中国、朝鮮半島、ベトナム北部など。貨物などの物資にまぎれて日本に侵入したと考えられています。



成虫は5月末~8月に発生します。

すぐに交尾した後、飛び回って幹や主枝の割れ目に産卵します。ふ化した幼虫は木の内部に入り込んでいきます。

木の中でさなぎから成虫になり、幹に細長い穴(脱出孔)をあけて、出てきます。



幼虫(左下)と脱出孔(右上)の写真提供: 埼玉森林科学園センター



幼虫

幼虫は樹木の内部で、2~3年かけて成長し、さなぎになります。



幼虫が入り込んだ樹木からは、大量のフラス(幼虫のフンと木くずが混ざったもの)が排出されるので、目印となります。

クビアカツヤカミキリは、幼虫がサクラやウメ、モモ、スモモ、カキなどの樹木の中に入り込み、木の内部を食い荒らしてしまう外来昆虫です。加害された木は衰弱し、やがて枯れてしまいます。

2012年に日本国内で初めて発見され以来、全国各地に次々と分布を拡大し、街路樹や果樹園で被害が出ています。被害の拡大を食い止めるためには、見つけたら早期に駆除することが重要です。

上の写真のようなカミキリムシやフラスを見つけた場合は、土地や施設の管理者、最寄りの関係行政機関にお知らせください。



# ◆ 全国に飛び地的に拡がっています

今後、いつ・どこの地域で見つかったもおかしくありません。

## 被害1

ウメやモモ等の果樹を加害し、  
甚大な果実被害をもたらします。

## 被害2

サクラやウメ・モモ以外にも  
様々な樹種を食害するため、  
生態系にも影響をおよぼすお  
それがあります。

## 被害3

公園や街路樹などのサクラ  
が加害されると景観が悪化し  
たり、お花見を楽しむことが  
できなくなってしまいます。

幼虫に食害された樹木の内部



写真提供：埼玉県環境科学国際センター



クビアカツヤカミキリが  
確認されている都道府県  
内は初確認年



食害が進むと、枝が落ちたり木が倒れたりして、人がけがをするおそれがあります。  
また、まん延を防ぐために薬剤を注入したり、場合によっては枯れていなくても伐採  
しなくてはならないこともあります。

## 防除・伐採時の留意点

- 伐採後も幼虫は木の中で生き続け、成虫になることができるため、  
伐採した材は放置せず、速やかに焼却または粉砕する必要があります。  
切り株に穴が空いている場合は、ネットをかぶせるなどの  
処置をしてください。
- 伐採したり、枯死した樹木を安易に移動させると、クビアカツヤ  
カミキリを拡散し、被害の拡大につながるおそれがあるため、  
移動させる前に適切な処置をする必要があります。
- 防除のために木にネット等を巻く場合、樹木とネットを密着させ  
ると食いやすいため、ある程度余裕をもたせてください。



## もし、クビアカツヤカミキリを見つけたら

- ・ 下記の環境省地方環境事務所、または土地や施設の管理者、自治体窓口までご連絡ください。
- ・ 発見日時、発見場所、発見時の状況をお知らせください。
- ・ 可能であれば、写真を撮影してください。
- ・ 成虫を捕まえた場合は殺処分してください（生きたまま持ち運ぶことは違法となります）。
- ・ 死んでいる個体であっても、見つけた場合にはご連絡してください。

## お問い合わせ

釧路自然環境事務所 0154-32-7500	長野自然環境事務所 026-231-6573	高松事務所 087-811-7240
北海道地方環境事務所 011-299-1954	中部地方環境事務所 052-955-2139	九州地方環境事務所 096-322-2413
東北地方環境事務所 022-722-2876	近畿地方環境事務所 06-4792-0706	那覇自然環境事務所 098-836-6400
関東地方環境事務所 048-600-0817	中国四国地方環境事務所 086-223-1561	

環境省外来生物対策室 TEL 03-3581-3351

環境省「日本の外来種対策」  
<http://www.env.go.jp/nature/intro/>

